

事業2年目、マダイ放流

親子向けイベントに協力

横浜丸魚㈱（小島雅裕社長）は25日、横浜市金沢区の横浜ベイサイドマリナで、中期経営計画にうたう持続可能な経営の一環で稚魚放流事業を行った。取り組み2年目は役職員によるマダイ放流イベントに加え、同日に開かれた横浜港埠頭㈱主催の稚魚放流イベントにおさかなマイスターやスタッフを派遣もする形に拡大させた。日常的に扱う水産物の資源回復への寄与だけでなく、地域貢献と魚食普及にもさらに踏み込む形へと進化させている。

横 浜 丸 魚



マダイをバケツで放流する横浜丸魚の役職員ら

午前8時に施設内のイーストハウス近辺の埠頭に集まった役職員は、同所から放流予定の90日齢・体長7〜9センチのマダイ8万5000尾（神奈川県栽培増殖業協分会分3万尾、日本釣用品工業会分5万尾、横浜丸魚分5000尾）のうち、最初の数百尾をバケツで海に放流し、活魚車からポンプで海へ続々送り込まれている様子を見守った。

小島社長はイベント中に「魚不足の中、放流事業の存在を知っていながら見過ごしてきた。魚を扱う企業としての使命」と述べて取り組み継続に意欲をみせた。

放流事業は2年目で認知度はまだ低いものの、総務担当者によると直近の採用活動では話題にする就活生もいるという。「取り組みを続け定着させていきたい」（小島社長）と話していた。

特製QOカード贈呈

午前10時から施設内のセンターハウスで開かれた、親子向けの「夏休み稚魚放流イベント」には、おさかなマイスターの資格をもち、日常的に幼稚園から小学生に食育授業



おさかなマイスターの杉浦部長（奥中央）がお魚クイズで親子らを楽しませた

.....

をしている杉浦邦弘営業二部長らを派遣。放流前の講義で、お魚クイズ12問を出題して親子約30人を楽し